



ゆうメール

誌名
青峰同窓会会報

発行日 2024年10月
発行 国立鈴鹿工業高等専門学校 青峰同窓会 広報委員会
〒510-0294 鈴鹿市白子町 TEL059-386-1031 E-mail:almn@suzuka-ct.ac.jp

SEIHO-DOSOKAI

青峰同窓会

会報
2024年号



パリ：エッフェル塔

INDEX

会長挨拶	1
校長挨拶	2
会長退任挨拶	3
■ 小手川 智	
卒業生からの便り	4
■ 半世紀ぶりのバレー部OB会／澤田 善秋	
転任教員挨拶	5～6
■ 河合 里紗 ■ 山本 真人 ■ 正木 彰伍	
退職教員挨拶	6～7
■ 竹茂 求 ■ 末次 正寛 ■ 山崎 賢二	

新任教員挨拶	8～9
■ 松枝 剛広 ■ 長谷川 賢二	
■ 小西 宏和 ■ 遠藤 健太	
第59回鈴鹿高専高専祭	10
お知らせ	11
■ 鈴鹿高専は皆さんのUターンを支援しています	
2023年度 会計報告	12
編集後記	12



同窓会会員の皆様

青峰同窓会 会長

本間 八重
(H7C卒)

話(NTT西日本)を退職。何も次の事が決まらないまま、ただただ前進し、2020年初めてのミセスコンテスト「MrsQUEEEN」にチャレンジをし、地方大会、全国大会まで進み、奇跡が起こりそこからなんと!!日本代表として世界大会に選出され、MsASIA(日本代表)としてMrsEarth世界大会へ2023年フィリピン(マニラ)にて行われた世界大会に出場いたしました。また今年2024年には海外からのオファーにて日本代表としてインドネシア(バリ)の世界大会に日本代表として出場も決まっています。また九星気学の勉強をしているうちに占い師にもなり、また別の場でラジオパーソナリィのお話をいただき名古屋のラジオ局MIDFMにてレギュラー番組を持ち、それがきっかけで番組プロデューサーにスカウトされ、今ではラジオ局内で10本以上の番組をプロデュースしています。その他に司会業、心理カウンセラーなど多岐にわたり活躍の場をいただき私を取り巻く環境には感謝しかありません。

そして今回、鈴鹿高専青峰同窓会「会長」ということで二代目を引き継ぐことになり「光栄」でありながら、身に余る大役、そして当然ながら経験のない中、今後の鈴鹿高専の発展に向けて、どのように貢献していけるのか、模索をしながら、今、自分たちに出来る事、古くからの歴史も大切にしつつ、新しい事にも挑戦し、一人一人それぞれが持っている鈴鹿高専の思い出を、大切に生かしていけたらと思います。今後は皆様の近況をお伝えしたり、時には学生時代を懐かしみ、そして時には今後の人生について語り合ったり…。世代を超えた交流の場を作っていきたいと考えております。こんなことがやってみたい、など皆様からのご意見などもお待ちしております。

この度、ご縁ありまして二代目青峰同窓会の会長を務めさせていただくことになりました(H7C卒)本間八重と申します。まずは初代会長の小手川智様、長年会長として鈴鹿高専の在校生及び卒業生の歴史を先導、またサポートをしてくださり大変感謝申し上げます。思えば、私の在学中、卒業後もずっと小手川様が会長でした。42Cの小手川様が卒業後57年も会長を務めてくださっていたかと思うとまだまだその期間分の年齢にさへも達していない私などまだまだ経験が浅く、継続は力なりを体現して下さった初代会長には尊敬・感謝以外の何物でもございません。

さて、私は平成2年に鈴鹿高専、当時の工業化学科(現在は生物応用化学科)に入学し、水泳部、茶道サークルに所属し、アクティブな学生生活を過ごさせていただきました。また卒業後は日本電信電話に入社、技術職として設備設計業務、設備投資管理、事業計画、人材育成など多岐にわたり活躍の場をいただきました。そんな会社員生活でしたが25年経過し、役職などもいただき、これから更なるキャリアアップのお話をいただいている中で急に次の人生を歩みたくなり、西日本電信電



はじめまして、新校長です

校長

藤本 慎司

4月から鈴鹿高専校長を拝命しました。本稿を書いた頃には通勤で道に迷わなくなりましたが、卒業生の皆様方に本校の近況をお知らせするのは難しく、今回は自己紹介をさせていただきます。

私は兵庫県神戸市出身で、山裾の自宅から神戸港と神戸製鋼所の灘浜製鉄所が一望でき、幼少の頃から製鉄は身近でした。当時の多くの理科好きの子供と同様、電気工作や化学実験で遊んでいました。大学進学では迷うことなく工学部を志望し、電気・通信あるいは鉄鋼関係と思って大阪大学工学部を受験すると冶金工学科に合格し、以来46年間大阪大学の同じところで過ごしました。

大学4年生の卒業研究では鉄鋼プロセスの研究室に属しましたが、大学院では私の卒業の年に北海道大学から教授として転任されたばかりの柴田俊夫先生の最初の大学院生となり、金属材料の腐食防食が専門分野となりました。大学院での研究課題は「高温高圧水中のFe-Cr, Ni-Cr系金属・合金の急速ひずみ電極挙動」でした。軽水炉型原子力発電では冷却水系ステンレス鋼配管の応力腐食割れが1970年代に大きな課題でしたが、私が研究を開始した1982年頃には対策が確立し、基礎的理解が求められていました。ステンレス鋼あるいはNi合金を構成する金属・合金を最高300℃の高温水中で急速に塑性変形した際の表面酸化物被膜の破壊と新生面溶解、さらに酸化物皮膜の再生過程を電気化学的に測定し、応力腐食割れに関する基礎研究を行いました。

1987年に博士課程を修了し、同じ研究室で助手にいただきました。博士課程での研究は中断し、不働態皮膜と呼ばれる金属・合金表面の厚さ2~3 nmの酸化物系超薄膜を研究対象としました。金属材料の耐食性は金属・合金そのものの

性質に由来するのではなく、表面に生成する不働態皮膜などの酸化物皮膜の環境遮断性がもたらします。すでに、不働態皮膜の様々な構造・機能が明らかにされていましたが、酸化物薄膜の半導体としての電子物性に興味があり、光電気化学応答、つまり水中の酸化物皮膜に光照射により電流を発生させる研究を始めました。主にFe-Cr系、Ni-Cr系の金属・合金と環境の組み合わせの測定を多数続け、不働態皮膜の半導体の型やバンドギャップなどを明らかにしましたが、電子物性を定量的に評価することは難しく、最近になって光電流の発生機構を数値モデル化し、光照射後の過渡応答と数値モデルの計算結果との比較により、電子の移動度やキャリア密度などの物性値を推定できるようになりました。

2002年に教授になった以降は研究対象が広がり、不働態皮膜の光改質、医療用金属材料の生体親和性、炭素鋼の鉄さびの改質等の金属表面性状に関する研究とともに、各種構造・機能材料の様々な腐食挙動の研究を行ってきました。多くは基礎的な内容ですが、企業との共同研究、あるいは腐食損傷に関する相談も多く、さらに企業との共同研究講座の開設・運営にも携わり、産業に近い分野の教育研究を行ってきました。

振り返ってみると、子供の頃のモノづくり体験と電気・電子への興味、そして金属への関心がこれまでの研究に至っていました。鈴鹿高専に来てから、創造工学や卒業研究あるいは各種コンテストで自らの意思で何かを作ったり、作業したりする姿をよく見ます。低学年からモノ作りを体験し、学術もしっかり学ぶ本校の優れた教育研究環境を維持し、さらに社会の変化に対応できるように、微力ながら務めさせていただく所存です。

青峰同窓会会長退任のご挨拶



小手川 智
(42C卒)

今年3月に同窓会会長を退任したことをご報告いたします。卒業生代表から同窓会長として約45年にわたり努めてまいりました。1期生である私は卒業後、鈴鹿市の隣町亀山市で就職しました。母校に近いということもあり、又WV部の初代部長ということもあり度々母校を訪れておりました。そういったことがご縁で、昭和52年頃から卒業生代表として卒業祝賀会に出席し祝辞を述べるようになった。卒業祝賀会は第2体育館で開催され、来賓、教官、卒業生達が集い酒類を伴ったもので今では考えられないことであった。これは昭和42年から平成10年頃まで続いた。その後、卒業祝賀会は幕を閉じ通常の卒業式のみとなった。

2代目校長矢野弥先生の時代に創立20周年記念式典の祝辞を述べ、その後30周年から50周年まで続いた。

3代目校長久保田郁夫先生から、同窓会会長に指名され、期待に添えないこともあるとご理解して頂いた上で引き受けました。当時の心境として、わたしだけでなく1期生は学校から要望されたことに対して、同意して遂行することは義務と考えておりました。

同窓会としての活動については、会員が50歳を超えた頃から動き出し活発化していきました。特にOB教官として本校の教育活動に

従事されている方々が中心になって進んでいきました。

平成12年に発足した「鈴鹿高専ヒューマン&テクノロジーネットワーク(SHTN)」が2期生斎藤正美先生の尽力によるもので、卒業生、教官等産学交流の場を構築しました。第一回の総会には勝山校長先生、卒業生、教官の皆さん約60人が参加しました。

平成25年には卒業生と学校とで地域貢献の一環として、「鈴鹿高専テクノプラザ」が3期生の澄野久生氏(中小企業診断士)により提案され、1期生長谷川俊男氏と学校との連携のもと発足した。当初31社であったが関係者の努力によって、現在では約150社にまで増え、産学官連携の体制が整った。

平成26年に11期生江崎尚和先生の提案によって「創立50周年記念ギャラリー」が旧3寮の改修に伴って設置された。昭和37年学校創立時からの種々な歴史的資料が展示されている。さらに創立50周年記念事業として「先進的エンジニア教育支援基金」を設立するにあたり、同窓会は総会を開き資金を拠出することを決定しました。これは創造性、国際性を兼ね備えた優秀なエンジニアを世に送り出すという母校の使命を達成するための支援であります。60周年記念事業は残念ながら新型コロナウイルス禍のためできませんでした。

様々な行事を進める中で、これまで大変多くの卒業生、校長、教官の皆さんの暖かいご支援をいただき感謝しております。特に6期生北村登先生には長らくお支えいただき厚くお礼申し上げます。

最後に同窓会会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念して退任のご挨拶とします。

卒業生からの便り

半世紀ぶりのバレー部OB会 澤田 善秋 (50C・9期生)

バレー部が全国制覇が出来ないのはOB会がないからだ、かつて言われていました。全国制覇常連校は皆、OB会が存在しています。ところが現役バレー部が全国制覇、しかも3連覇を達成してくれました。これを機会にOB会を開催しなければと思いました。

50Hの町野(旧姓藤林)君、50Eの木村君、51Eの馬場君とうまく連絡が取れ、昨年9月にプチOB会を開催しました。その際、全体のOB会を開催しようと意見が一致しました。但し、60年間の卒業生に連絡が取れたとしても、初対面では盛り上がらない可能性があります。そこで、S50年(1975年)卒業生を中心に前後5年を目途に開催すれば、ほとんどが顔見知り(少なくとも発起人は)になります。それでも連絡先を確保するのに時間がかかりました。卒業生名簿、同窓会名簿と個人的な繋がりを頼りに住所、メールアドレスを入手し、5月25日に約半世紀ぶりの同総会開催に漕ぎつけました。21名の参加者と1名のWeb参加で、事前に各人の近況報告も入手しました。ここで分かったことは、写真を見ても誰か分からず、街中(まちなか)ですれ違っても気が付かないと思いました。当日は名札も作成し、誰かが分かるようにしました。最初は誰

か分からなくても、すぐに半世紀前の記憶がよみがえりました。自己紹介に加え、半世紀以上前に撮影された写真を会場のスクリーンで共有しながらノスタルジーに浸りました(49Cの井坂さんがアルバムを残してくれていました)。

当時は全寮制で、しかも食事は全員左手で食べるルール(左手が使えるとプレイの幅が広がる?)に苦労したこと、卒業後にいろんな場面で役立ったことや懐かしい話で盛り上がり、3時間のOB会があつという間に過ぎました。折角OB会を開催するので現役学生にも何らかの役に立ちたいとの思いから写真にある横断幕(縦1m×横3m)を寄付させて頂きました。この横断幕の想いも含め、新しい歴史に向かって頑張っ

てほしいです。部活は勝つためだけではなく、その努力の過程が社会に出てからも大いに役立ちます。現役学生諸君にも、この思いが伝わり将来に役立てて欲しいと思います。今回の対象は3～13期生(1969～1980年卒)でしたが、次回(3年後?)はあと5年対象者を広げたいと思っています。それ以外にも若手発起人が現れ60年間のOB会に繋がれば嬉しいです。



OB会後の集合写真(横断幕と共に)

転任教員挨拶

新天地より 河合 里紗

奈良女子大学大学院自然科学系化学領域 助教

令和6年3月まで材料工学科に4年間在籍しておりました河合です。在職中は大変お世話になりました。私は本年度4月より奈良女子大学理学部化学生物環境学科化学コース(旧 理学部化学科)の助教に転任致しました。高専では現在非常勤講師をしており、毎週名阪国道を走っていると家に帰っているような錯覚に陥ります。大学は駅から徒歩5分のところにあり、大阪難波・京都・神戸に直通で行ける交通の便のよい場所です。一方、研究室から屋上に出ると文化財である大学記念館の背後に東大寺大仏殿が見える、そんな風情ある地で過ごしています。

4年間は本当にあっという間でした。社会人経験と教員経験が皆無だったにもかかわらず不安に感じたことはほとんどなく、皆様の温かさに支えられてきたことを実感しています。オンラ

イン授業、卒研、担任、研修旅行、公開講座、バド部、高専祭...大学や他高専では味わえない経験がとても懐かしいです。高専着任と同時に入学した学生は既に5年生ということに驚きを隠せません。鈴鹿高専での経験とネットワークを大切にしながら、研究者であり教員としての貫禄をつけるための修行だと思って、新たな気持ちで研究・教育に励んでいきたいと思っています。

末筆になりますが、鈴鹿高専の皆様の今後のご活躍と益々のご発展をお祈り申し上げます。



新天地より 山本 真人

富山大学学術研究部社会科学系 助教

鈴鹿高専の皆様、ご無沙汰しております。4月から富山という新たな場所での勤務が始まりました。鈴鹿高専にいたときは、学生や教職員の皆様とともに多くのことを経験しました。それらが現在の私を形作っていると感じています。

実は、今も時々用事で三重県を訪れることがあります。ですので、鈴鹿高専の皆様ともまたばったりとお会いする機会があるかもしれませんね。生活の場所は変わりましたが、鈴鹿高専で培った経験と知識を富山での教育と研究に活かし、より一層努力していきたいと思っています。

富山大学では、教育と研究に専念できる環境に恵まれつつ、忙しい日々を過ごしています。

また、鈴鹿高専と同じくキャンパス内で自然を感じます。この記事の執筆時には美しいアジサイの花が咲いていました。そのアジサイの写真もご覧いただければと存じます。皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。またどこかでお会いできる日を楽しみにしております。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。



新天地より 正木 彰伍

中京大学工学部情報工学科 講師

ご無沙汰しています。昨年度まで機械工学科におりました正木です。在職中は大変お世話になりました。

今年度から中京大学工学部情報工学科にて勤務しています。同じ高等教育機関ではありますが、やはり様々な面で違いがあり、適応に努めているところです。ただ、鈴鹿高専での経験がベースにあることで楽をさせてもらっていると感じることも多いです。改めて在職中の皆さまのご指導に感謝する今日このごろです。

勤務先は豊田キャンパスです。ここは工学部情報系学科の他、スポーツ科学部のキャンパスにもなっていて、スケートリンクなど本格的な施

設が多数あります。写真は居室からの風景です。豊田の豊かな緑の中に、陸上トラックの赤が映えます。

高専祭にはぜひ遊びに行きたいと思っています。その際はどうぞよろしくお願いいたします。最後になりますが、鈴鹿高専の益々の発展をお祈りしています。



退職教員ご挨拶

退職のご挨拶

竹茂 求

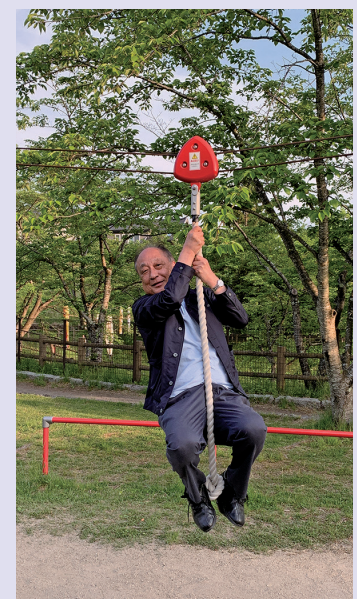
仙台高専と長岡高専を含めて高専教育に長く携わり、この3月に鈴鹿高専の校長を退職しました。教職員や保護者をはじめ関係の皆様には大変お世話になりました。最後の鈴鹿高専は学生の皆さんとの思い出など特に忘れ得ぬ4年間でした。

現在はガーデニングやウォーキングで心身をリフレッシュし、趣味レベルの数学や物理の勉強を楽しみ、これまでに感じたことがない自由を満喫しています。しかし、心はまだ鈴鹿にあるような気持ちで、HPやSNS等で鈴鹿高専のことをうかがっています。

日本経済の失われた30年の問題が示すように、社会の変遷に応じて変化できなかった日

本の課題が浮き彫りになっています。エンジニアリング教育でも過去の考え方や方法が根深く残り、欧米先進国に20年は遅れていることを痛感します。その中で鈴鹿高専は、生成AIや起業家精神育成など全国高専を先導する教育を推進しておられるのは素晴らしいと思います。

離れても鈴鹿高専の発展を心から祈っています。



公園で小学生達が撮影

退職教員ご挨拶

定年退職のお礼



特任教授
末次 正寛

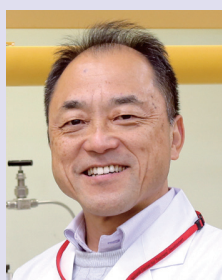
平成5年(1993年)4月に、機械工学科の教員として採用いただきました。

刀工になろうと考えてみたり、小学校の教員になろうとして近所の女子大学へ免許を取りに通ったりと、20代はかなりふらふらしていましたので、着任時には30を2つ3つ過ぎておりました。高校時代に、東京発大垣行き夜行普通列車を使って伊勢方面へ仲間と旅行に来たことがありましたが、これが三重県とのご縁だったのかもしれません。以来数十年、まさかこのようなご挨拶を書く日が来るとは、思ってもみませんでした。

着任当時、機械工学科の学科長でもあった辻正利教授、ならびに西谷正教授の材料力学研究室で助手として勤め始めました。お二人とも私のことを第1に考えて、実験室や実験装置の整備を最優先していただいたことを鮮明に覚えています。今思いますと、あまり期待に応えられなかったことをお詫びするしかありません。両先生をはじめとして、本校の教職員の方々には本当によくしていただきました。改めてお礼申し上げます。

また、最大のお礼を言わないといけないのは、本校で縁あった学生の皆さんだと強く感じています。このような私によくがまんして付き合ってくださいました。おかげをもちまして、何とかゴールまでたどり着くことができました。ありがとうございます。活躍中の皆さんへ、私の好きな言葉「人間万事塞翁が馬」を紹介して本文を閉じたいと思います。

定年退職のご挨拶



嘱託教授
山崎 賢二

鈴風をお読みの皆さま、紙面をお借りしまして、私事ですが定年退職のご挨拶を申し上げます。

春暖の候 皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私はこの度3月末日をもちまして鈴鹿高専を定年退職することになりました。

私が鈴鹿高専に参りましたのは昭和60年4月でした。以来39年間(うち2年間は鳥羽商船高専在籍)勤めさせていただきました。その折々における教職員の皆さま、学生の皆さまとその保護者の皆さまには多くのご指導とご鞭撻、ご協力をいただきました。たくさんお世話になりま

した。感謝申し上げます。

39年間の教員生活では、喜怒哀楽色々なことがございましたが、済んでしまえば皆必然的な出来事だったのでしょうか。でもずっと変わらなかったのは「私は学校が好きだから」ということです。授業もクラブ活動も産学連携による研究活動もみんな好きでした。研究室は自宅より居心地が良かったくらいです(笑)

好きといえば、私は日本酒が大好きで、全国き酒選手権大会に三重県代表として二度出場させていただきました。退職後は日本全国の蔵元様を訪問して、蔵元漫遊なる生活も夢見ておりましたが、まだまだ「働かざる者呑むべからず」で、4月から引き続き短時間勤務教員として週4日勤務させていただきます。日本酒三昧の夢は二年先といたします。

皆さまには今後とも変わらぬご厚誼のほどよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。 ※『鈴風』より転載

新任教員挨拶



着任のご挨拶と高専教育への抱負

松枝 剛広

このたび4月1日付けで富山大学から鈴鹿高専機械工学科に講師として着任いたしました松枝剛広と申します。まずは、着任から本記事が掲載されるまでに皆様から様々なご支援を賜りましたことを感謝申し上げます。博士学位取得から10年間過ごした大学という環境を離れ、鈴鹿高専にて新たなステップを踏み出すこととなり、不安とともに高揚感を感じつつ日々を過ごしております。さて、これから鈴鹿高専にて教鞭を執るにあたり考えてみたところ自分の強みは大学での教育カリキュラムを熟知している

こと、翻って弱みは高専での教育を把握できていないことだと気づきました。本科卒業生のうち少なくない割合が大学への編入試験に挑戦しており、「その出口を知っている」ことは私の大きな強みと考えています。一方、その水準を満たすために高専教育において自分がどのように貢献していくべきか、まだ一定の答えを見出せていません。その答えを見つけるべく邁進してまいりますので、前任の皆様からご指導ご鞭撻を賜れますと幸いです。これから、よろしくお願いたします。



着任のご挨拶

長谷川 賢二

4月1日に鈴鹿高専に着任いたしました、長谷川賢二と申します。よろしくお願いいたします。3月までは名古屋大学の教員をしておりました。鈴鹿高専で働けるとこになり、大変嬉しく思っております。着任してまだ日が浅いですが、学生さんとのコミュニケーションも楽しみながら働いております。

この度、機械工学科の教員として採用していただいたのですが、専門は宇宙物理学で、これまで主に数値シミュレーションを行っていた

という変わり種です。あまり機械工学と関係ないように思われるかもしれませんが、使う物理は共通している部分が多いです。また、最近ではAI・機械学習の普及で、多様な分野でこれらをデータ分析に取り入れていく時代であり、このあたりの貢献も意識していきます。とはいえ、まだまだ工学分野には不慣れで、わからないこともたくさんあると思いますので、先達の先生方のご指導賜りながら、学生のみなさんと一緒に成長していきたいと思っています。

新任教員挨拶

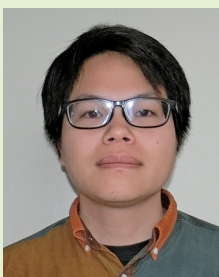


着任のご挨拶

小西 宏和

4月1日付で大阪大学 大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻から鈴鹿工業高等専門学校 材料工学科の講師として着任いたしました小西宏和と申します。これまで、大阪大学ではどちらかというと教育より研究に比重を置き活動してきました。鈴鹿高専では学生教育を重視し、無機化学や物理化学などを中心に、学生が卒業研究、大学編入、専攻科進学、就職時に必要な基礎学力を身につけることを目標に授業に取り組みたいです。また研究

では、カーボンニュートラル社会の実現へ向けた新しい無機材料の創成、環境材料の創成等の関連のテーマに学生と取り組み、将来の脱炭素社会実現に向けた社会・産業活動の主軸となる材料工学分野で活躍する人材の育成に努めます。さらに授業や研究だけではなく、学生の学校生活にも協力していきたいと思っていますので、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

遠藤 健太

4月より電子情報工学科に着任いたしました遠藤健太と申します。これまで私は数学教員として2年間働いてきましたが、今年度から電子情報の先生として、本学に勤めることとなりました。高専教員として働く中で、徐々に工学への興味を強く持つようになっていきました。また、工学を志す学生と接していく中で、より専門的な立ち位置から工学教育に携わりたいと思うようになりました。数学教員として働いてきた知見を活かして、工学技術の原理的な理解を大

事にした教育を実践していきたいと思っています。

また、研究においては、「非破壊検査工学」を専門にしております。最近は、その中でも「パルス渦電流探傷試験法の数値シミュレーション」を中心として研究をしています。また、数学面では「解析的整数論」の研究を進めています。研究・教育に全力で励んでまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



第59回 鈴鹿高専 高専祭

開催日

2024年
11月 2日(土) 3日(日)
9:00~

場所

鈴鹿工業高等専門学校

アクセス

白子駅より徒歩28分
東旭が丘三丁目バス停より徒歩8分
駐車場有（場所未定）

屋台

大福、五平餅、牛串、唐揚げ、チュロス、揚げだこ、フライドポテト、おでん、イカ焼き、たません、肉まん、ベビーカステラ、お茶とお菓子、フランクフルト、はしまき、ポップコーン、トンテキ串、わたがし、たい焼き、小籠包、餃子、焼き鳥、焼きそば、串カツ、トルネードポテト、わらび餅、ワッフル、揚げパン、コロケ

お問い合わせ

☎059-324-2418
✉snctfesta.contact@gmail.com

HP



各種SNS



お知らせ

鈴鹿高専青峰同窓会の皆様へ

鈴鹿高専は皆さんのUターンを支援しています

本校の卒業生は約1万人となり、全国の企業、団体等で活躍されています。しかしながら、様々な事情で三重県へのUターンを考えておられる方もあるのではと、推察いたします。

鈴鹿高専では、鈴鹿高専テクノプラザ(注1)を窓口として、卒業生のUターン支援を行っております。テクノプラザには、卒業生の堀部と元教員の桑原の2名のコーディネータが在籍し、皆さんのご相談に応じております。Uターンを考えておられる卒業生の皆さん、まずは、コーディネータに声をかけてください。

三重県では県外への人材流出が見受けられ、177社の

テクノプラザ会員企業でも即戦力の技術者が不足しており、卒業生のUターンを切望しています。会員企業の多くはOB・OGが働く企業ですので、安心して仕事に取組めるといいます。

職業安定法に基づく実務は職業紹介専門企業が行います。コンサルティングを通じて、地域、職種はもちろん皆さんの技術経験、性格の理解から始め、不安なく転職頂けるサポートを準備しております。下記ホームページにアクセスください。

会員企業には中京地区企業もありますし、シニア専門職を求めている企業もあります。また、当校卒業生ならではの求人情報も開拓しています。



両親の老後が心配だし、田畑の管理も…

都会の競争やストレスより、技術を生かした仕事。

人材企業の支援のもとで不安なく転職

〈テクノプラザホームページ〉

エントリー：登録

オンライン面接

面接のスキルアップ

企業や職種の分析

企業・職種の決定

企業面接

入社後のカウンセリング：転職企業への定着支援

地元の転職専門サイトでの登録となります。
地元企業に詳しい転職サイトが不安のない転職に寄り添います。

- 適職診断、自己理解
- 履歴書、自己PR書の書き方、添削指導
- 貴方に代わって条件交渉
- カウンセリングにより、その他の心配ごとにも対応します。



会員企業見学会の様子

鈴鹿高専テクノプラザ ホームページ <https://www.suzuka-ct.ac.jp/facilities/techno-plaza/>

注1：産学官連携で ものづくり支援 ～鈴鹿高専テクノプラザ～

2013年(平成25年)に産学官の連携を構築し、製造業の課題に寄り添った教育・研究を振興し、地元企業の発展に寄与すべく「鈴鹿高専テクノプラザ」を設立し12年目を迎えております。現在は、企業会員177社、特別会員15団体、個人会員21名です。また、テクノプラザの活動を更に充実させるために、企業会員及び個人会員の増強を進めています。

卒業生の皆様には、関係企業の会員登録にご協力頂ければ、共同研究や人材の紹介を通じて共存共栄できるかと存じます。

お問合せ・お申込みは、下記連絡先までお気軽に!

鈴鹿工業高等専門学校 総務課(鈴鹿高専テクノプラザ事務局)

TEL:059-368-1717 E-mail:technoplaza@jim.suzuka-ct.ac.jp

コーディネータ連絡先/堀部:stillwater248@yahoo.ne.jp 桑原:hiquwa@gmail.com



2023年度 青峰同窓会 会計報告

収入の部	摘 要	金 額 (円)
	・2022年度からの繰越金	27,726,058
	・2022年度新入会員(2022年度 卒業生) 入会金・終身会費(214名)	2,354,000
	・預金利息	444
	合 計	30,080,502

支出の部	摘 要	金 額 (円)
	・会報発行(印刷・袋詰め・宛名)	466,039
	・会報発送(郵送)	510,552
	・先進的エンジニア育成基金寄付(2023年度分)	999,780
	・振込手数料	440
	合 計	1,976,811

繰越金	摘 要	金 額 (円)
	・2024年度への繰越金	28,103,691
	支出と繰越金の合計	30,080,502

編集後記

暑い日が続いていますが、お元気で活躍のことと想像します。鈴鹿高専も創立60周年還暦を過ぎました。自分も年齢を重ねるばかりです。パリオリンピックで、連日熱戦が繰り広げられ8時間の時差の関係上、睡眠時間確保が困難な状況が続いていますが、皆様は如何ですか。地球温暖化による異常気象、記録的な円安、株価の乱高下、変えようと、変わろうとしない政治状況、こここそ若い技術者の力が期待されている状況だと思います。

さて二つ連絡があります。一つは、同窓会報の連絡や制作上必要なノートパソコンを購入して頂き、この会報から使っています。もう一つは、私事ですが、今度本を出すことになりお知らせします。タイトルは「吉岡さん、頑張っ」文芸社、2025年1月発売です。自分のリライフ、定年後のことをまとめてみました。是非手に取って読んでいただけたらと思います。[奥]